令和４年度第２回 西脇市地域公共交通会議　議事録

【日　時】令和５年２月27日（月）９：30～10：55
【場　所】西脇市役所　３階　大会議室
【出席者】会長：１名
委員：19名
オブザーバー：３名
関係者：３名
事務局：４名
傍聴者：３名

【次　第】
開　会・あいさつ
１　協議事項
⑴　西脇市地域公共交通会議規約等の一部改正について
⑵　乗合タクシー「むすブン」の増車について
⑶　おりひめバスのダイヤ改正について
⑷　地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
２　報告事項
⑴　西脇市地域公共交通計画の策定について
⑵　西脇市コミュニティバス・デマンド型交通の利用状況等について
⑶　路線バス等のダイヤ改正について
⑷　ＪＲ加古川線（西脇市～谷川間）について
３　その他
閉　会

【会議の概要】

（開会）

○　出席者数の確認

・委員19名出席、西脇市地域公共交通会議規約第２条第７項による定足数を満たしているため、この会議は成立

○　あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げる。西脇市が令和３年４月に公共交通の再編を実施して以来、約２年が経過した。新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、公共交通を取り巻く環境は大きく変化している。委員各位には忌憚のないご意見をお願いする。

1　協議事項

⑴　西脇市地域公共交通会議規約等の一部改正について

（事務局から資料説明）

・意見、質問なし

⇒承認

報告事項（協議事項⑴と関連するため先に報告）

⑴　西脇市地域公共交通計画の策定について

（事務局から資料説明）

・意見、質問なし

再び協議事項

⑵　乗合タクシー「むすブン」の増車について

（事務局から資料説明）

【委員】

・むすブンの利用について、利用者のエリア詳細（どの地域の利用が多いか）、利用傾向（どこからどこまで乗る人が多いか）、利用者の年齢等の分析について知りたい。

【事務局】

・行先については、医療機関、スーパーなどの商業施設、公共施設の順に多くなっている。利用者は各地区まんべんなく存在しているが、強いて言えば津万地区及び黒田庄地区の利用者がやや多くなっている。利用者の年齢については、59歳以下が20％弱、60歳代が約５％、70歳代が約30％、80歳代以上が約50％と、利用者の大半は70歳代以上である。

【会長】

・内容について承認いただいてよろしいか。

⇒承認

⑶　おりひめバスのダイヤ改正について

（事務局から資料説明）

・意見、質問なし

⇒承認

⑷　地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について

（事務局及び神姫バスから資料説明）

【委員】

・西脇社線のダイヤ改正により、市民の利便性はどう変化するのか。

【神姫バス】

・途中のバス停留所の変更はない。従来の西脇から三宮まで直通している急行線は、やしろショッピングパークBio前は経由していなかったが、ダイヤ改正後のローカル系統は乗り入れる便もあるため、やしろショッピングパークBio前を起終点とする便数は増加することとなる。しかし、これまで西脇から三宮まで通しで乗車されていた方について

は、社（車庫前）もしくはやしろショッピングパークBio前でバスを乗り換える必要が発生する。

【会長】

・内容について承認いただいてよろしいか。

⇒承認

２　報告事項

⑵　西脇市コミュニティバス・デマンド型交通の利用状況等について

（事務局から資料説明）

【委員】

・むすブンは、運行開始当初どれくらいの利用を計画していたのか。

【事務局】

・むすブンは当初１日40人程度の利用を見込んでいたが、現在は１日120人程度となっている。

【委員】

・今後利用者がさらに増加していった際にはどのように対応するのか。

【事務局】

・現在、１日当たりの予約断り件数が18件となっているが、１台増台することにより断り件数がどう推移していくのか、また、登録者数の今後の推移等を研究しながら検討していく。バスについても、全体的に利用者は増加しているが、中には利用者が少ない便もあるため、今後も継続して見直しを行っていく。

【委員】

・登録者数が今後ますます増加していくことが考えられるが、増台を行う基準を設けることはしないのか。

【事務局】

・現在１台当たり１日25～30件程度の運行を行っており、１台増車することにより、断り件数18件のうちある程度はカバーできると考えている。登録者は増加し続けているが、全員が利用しているわけではないため、今後は実際の利用状況を見ながら検討を行う予定である。

【委員】

・むすブンの乗車率（１運行当たりの乗車人数）はどれくらいか。断り件数を減らすためには、乗車率を上げる、という方法もあるのではないか。

【事務局】

・利用者を乗せて運行している時間中、平均で1.3人程度を乗せている、というデータがあり、この数値を「乗合率」と呼んでいる。乗合率が高いほど、運行効率が良いということになるが、むすブンはどちらかというと乗合率よりも利便性を重視している。乗合いになるかどうかは利用者の予約状況に左右されるため、利便性を維持しながら乗合率を大きく向上させることは難しいが、可能な限り効率と利便性が両立できるよう考えていきたい。

【委員】

・利用状況に合わせて増台をしていけば、全ての利用者が乗車できるようになるが、物理的な方法にはコストが発生する。断り件数の減少方法についても、受付方法の改善などの技術的な部分での解決方法について研究を行ってほしい。

【委員】

・現在、バス業界・タクシー業界等で乗務員不足となっている。増車が続くようであれば、いずれ乗務員の不足が生じることが考えられる。多くの市民が同じ場所から同じ場所へ移動しているのであれば、既存の路線バスのルート変更などでカバーできるかもしれない。そのためには、利用が多い、または少ないエリアや時間帯等、可能な限りで情報を公表いただき、交通会議で方向性を定めていくべきではないかと考える。

【事務局】

・今回は増車という方法を提案したが、理想は全ての公共交通が共存していくことである。むすブンの利用者が増えることに伴い、市民全体の移動が活性化していることが考えられる。行きはむすブン、帰りはバスといったように、公共交通の相互利用が増えることが望ましい。今後もご協力をお願いする。

⑶　路線バス等のダイヤ改正について

（多可町及びウイング神姫から資料説明）

・意見、質問なし

⑷　ＪＲ加古川線（西脇市～谷川間）について

（事務局から資料説明）

【委員】

・通学定期券の購入支援について、開始時期と予算規模について知りたい。また、本日新西脇駅から市役所まで徒歩で来たが、容易に歩ける距離であると感じた。市役所職員の通勤利用について事務局の意見を聞きたい。

【事務局】

・定期券の購入支援については、予算審議が終了していないが、令和５年４月１日開始を予定しており、予算規模は140万円である。職員のＪＲ利用については、通勤や出張の際には可能な限り利用してもらうよう呼び掛けているところである。ただし始業時間に間に合わない便もあり、今後ダイヤ改正の際にはご配慮いただければ有難い。

３　その他

○意見交換

・バス運転者の改善基準告示の改正に係る乗務員確保への協力依頼及び「貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドライン」について、兵庫県バス協会・水田委員から説明。

（閉会）